

2010年12月19日発行(毎月18回 1、3、5、6、7、9の日発行)通巻 6002 定価 150円

発行人: 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 1983年7月19日第3種郵便物認可(埼玉県川口市元郷10-10-13)

SSTK

じゃなかしゃば

No.201

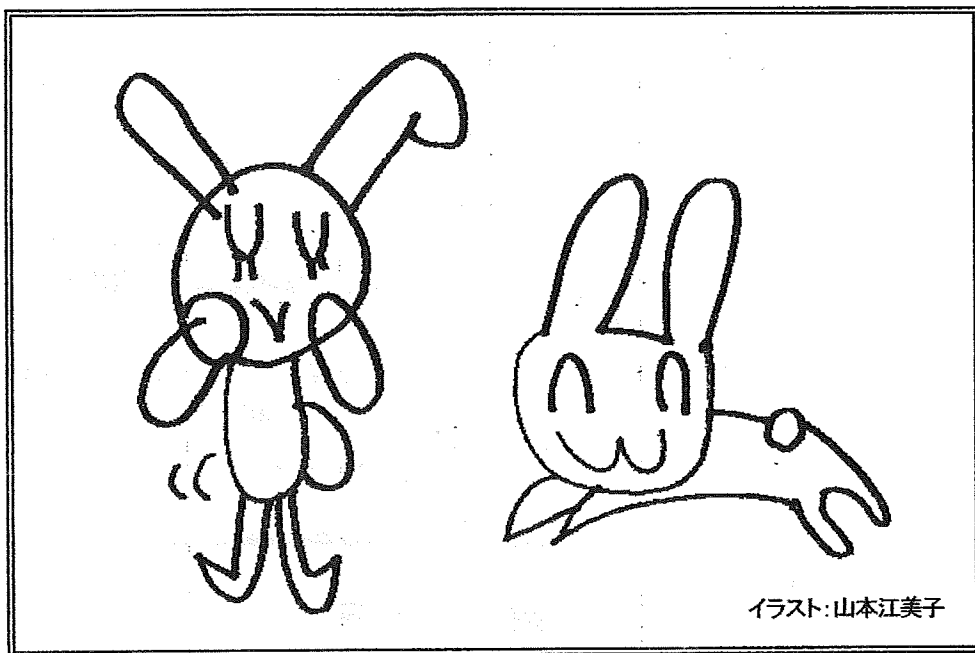


イラスト: 山本江美子

～ひなたぼっこ便り～

※誌名「じゃなかしゃば」は九州水俣地方の方言で「今のようでない世の中」という意味。
私たちは障害のある人もない人も共に生きる社会を目指して活動しています。

【編集】 NPO 法人ちばMDエコネット／代表 山田晴子

〒273-0005 船橋市本町4-31-23 TEL/FAX 047-426-8825

Eメール: sun@mdeconet.jp

ホームページ: <http://mdeconet.jp/>

郵便振替口座: 00150-6-404243

口座名: NPO法人ちばMDエコネット

今年1年を振り返って

山田晴子

今年1年が無事終わることを喜び合う、そんな季節になりました。毎年のように思うことなのですが、本当にいろいろなことがあった1年でした。一番大きなことは、高根公園の中にできた高齢者施設、高根台つどいの家で清掃委託の仕事が始まったことです。

高根台つどいの家では1年前に、「ユニバーサル就労」という、さまざまなハンディを持つ人たちが一緒に働ける仕組みをつくる試みのワークショップを始めました。ちばMDエコネットもワークショップに参加し、今年6月から週2回の清掃業務をお受けすることになったのです。できるだろうかと思いつつも早くも半年がたち、障害のあるスタッフたちは少しずつモップ運びが上手になってきました。一方で、行かないことになっている場所へいつのまにか入っていたり・・・来年もいろいろあることでしょう。みんなで力を合わせて、高根台つどいの家をきれいにする仕事をやっていきたいと思っています。

カフェから外へ一歩踏み出した1年、そしてカフェがリニューアルした1年でもありました。新しいキッチンスタッフを迎えて、カフェは彩りが加わりました。クリスマスには、天井に見事なクリスマスリース、そして店の入り口にはクリスマスツリーを飾りました。

また、今年はノーマライゼーション学校支援事業について県教委各課との連携協力が進み、事業がさらにやりやすくなりました。年度後半では、就学や中学卒業後の進路について相次いで相談があり、この事業の必要性を痛感しました。研修への参加も確実に増えてきました。参加した方から地域の格差を訴える声を受けて、来年度は千葉県の東部地域でも出張研修を検討していきたいと思えます。

来年は「ひなたぼっこ」の新たな出発を期して、10年を迎えたNPO法人の取り決めや運営を見直していきます。この1年、みなさまの応援に心から感謝いたします。来年もどうか、私たちをご支援くださいますよう、どうぞよろしく願います。

臨時総会のご案内

日時：2011年1月16日(日) 14:00~16:00

場所：コミュニティカフェ〈ひなたぼっこ〉

議案：定款変更に関する件

来年度以降の法人の運営に関して、定款変更が必要になりました。手続きを早急に進める必要があり、年明け早々になりますが、臨時総会を開催いたします。

会員の皆さまには、別途資料をお送りいたしますので、どうぞよろしく願います。

★カフェのイベントご報告★

■10月23日(土) きらきら秋の夢ひろば(きらゆめ)

爽やかな秋空のもとで開催されたきらゆめ。ひなたぼっこでは、あさりご飯やきらゆめパンの販売をしました。それ以外に、下総中山の「Raksa」さんから寄贈していただいたアジアの衣料品を販売したり、ボックスショップの方にも出店していただきました。人通りが多く、通り全体がにぎやかになっていました。また、おひさまバンドもきらゆめステージで演奏しました。今回はメンバーが増えて、演奏も充実していました!



■11月28日(日) ピーストレイン第22回公演

ピーストレインの二階堂さんは、「毎年カフェでは新作を上演することになっているの。」とおっしゃって、世界平和のことや核の問題を丁寧に伝える作品を作っていらっしゃいます。カフェのスタッフやボランティアさんも観て、平和についてそれぞれに考える時間を持つことが出来たと思います。ピーストレインのみなさん、ありがとうございました!



■12月23日(木・祝) 高根台つどいの家クリスマスイベント

いつも清掃に行っている高根台つどいの家ですが、今回はクリスマスイベントで出張カフェをやらせていただきました。おひさまバンドも演奏し、入居者の方々は演奏にあわせて手拍子をしたり、歌を歌ったりして、とても盛り上がりました。出張カフェでは、全部で100杯近いコーヒーをお出しして、スタッフもボランティアさんも大忙しでしたが、カフェの外でこのような機会をいただけることは、本当にありがたいです。



11月3日に学校支援事業フォーラムを行いました

山田晴子

千葉市のきぼーる13階、ビジネス支援センターで、今年度のフォーラムを開催しました。学校支援事業の中間報告を行い、岡山大学の佐藤暁さんに講演していただきました。中間報告では、学校支援事業を理解していただけるように、学校サポーターの具体的な動きや事例をお話しました。県教委担当課の方々に来ていただき、各市町村教育委員会からの参加もあり、保護者、学童クラブ指導員、中核地域生活支援センター職員など、障害のある子どもに関わる多彩な参加者が多数集まりました。

昨年のフォーラムで心に響くお話をしてくださった佐藤暁さんに、今年も講演をお願いしました。ぜひまた聞きたいという声がたくさんあり、主催者である私たちも楽しみにしていました。講演は、たくさんの写真をもとに進められました。小学校の国語の授業で、数人が机を寄せ合ってグループで学んでいました。子どもたちが相談しながら進める授業です。なかなか発言できないY君が、グループの仲間との話や先生の具体的な質問で、思っていることが引き出され、長くまとまった話ができるようになった姿がありました。先生は、Y君と仲間の間をつなぐ役割を果たし、Y君が発言する場面ではクラス全体に話せるように、Y君のそばを離れて聞いていました。クラスの子はY君の話を聞いて、同じように感じたということをそれぞれ自分の言葉で話していました。Y君は、自分の話したことを他の子に承認してもらって安心したようでした。こうした経験が自信になるのだと思いました。大切なのは子ども同士の学び合いで、それができるように「つなぐ」授業をしていきましょう、と佐藤さんは会場に呼びかけました。

中学校の数学の場面では、なかなか理解しにくいKさんに方程式を教えようと、さまざまに工夫する子どもたちのようすが写されました。「子ども同士は、つまずいている子を決してほおっておかない。ほおっておく時は、先生がその子をほおっているからです」という言葉に、「先生」を「大人」に置き換えれば誰にでも通じると思いました。中学でも、4人のグループで授業が進んでいました。自分の言葉で語ることが理解を進めることであり、ペアやグループを組むことの意味は、どの子も自分で語り出す機会をつくるためでもある、というお話に納得しました。しかし実際は、多くの授業で、理解できる子ばかりが話す機会があり、理解しにくい子はますます話す機会がなくなってしまうのです。理解しにくい子どもたちにこそ、話す機会をつくることです。これは、知的障害のある私たちの子どもたち(もう大人ですが)にも、とても必要なことだと思いました。

佐藤さんは、これからの教育の理念はインクルージョンの方向に進むと言われました。そして実践形態としては、統合することと一部個別の支援(つなぐ支援)をうまくかみ合わせることで、障害の重いか軽いかを問わずやっていけると思う、と言われました。「子ども同士がつながる授業」をつくってあげたい、という熱い思いが伝わってきました。

佐藤さんの講演と、参加して下さった皆さんから、この学校支援事業を頑張ってやっていこうという励ましをいただいた、今年のフォーラムでした。

ノーマライゼーション学校支援事業
(千葉県とNPOとの協働事業)



イラスト: 山本江美子

第5回・第6回研修

日時: 2011年1月30日(日)

第5回 [13:00~15:00]

第6回 [15:15~17:15]

場所: 千葉商工会議所 研修室A (12階)

第5回	「LD・ADHDの理解と学習支援」 講師: 大山恭子さん(船橋市立船橋小学校通級指導教室担当教諭)
13:00 ~15:00	LD・ADHDの子どもたちが抱えている学習の困難さを理解することから、支援の第一歩が始まります。具体的な学習支援の中で、子どもたちの自己肯定感が育っていくような環境作りが必要です。講師の豊富な実践例から、課題や目標の立て方など、支援のヒントを学びましょう。
第6回	「通常学級における特別支援一保護者と学校とが力を合わせて」 講師: 佐藤慎二さん(植草学園短期大学教授)
15:15 ~17:15	障害のある子は、学校生活でさまざまな課題に直面します。そのとき保護者と学校との共通理解が、解決に欠かせない重要なポイントと言えます。授業での具体的な支援方法を学ぶと共に、その子のためにどのような支援が必要なのか、学校と保護者が共有していく方法についてもお話していただきます。

定員 各60名

参加費 各1000円(資料代)

※第5、6回両方ご参加の場合は2000円です。

内容 講師の方の講義と質疑応答

主催 NPO法人ちばMDエコネット、千葉県

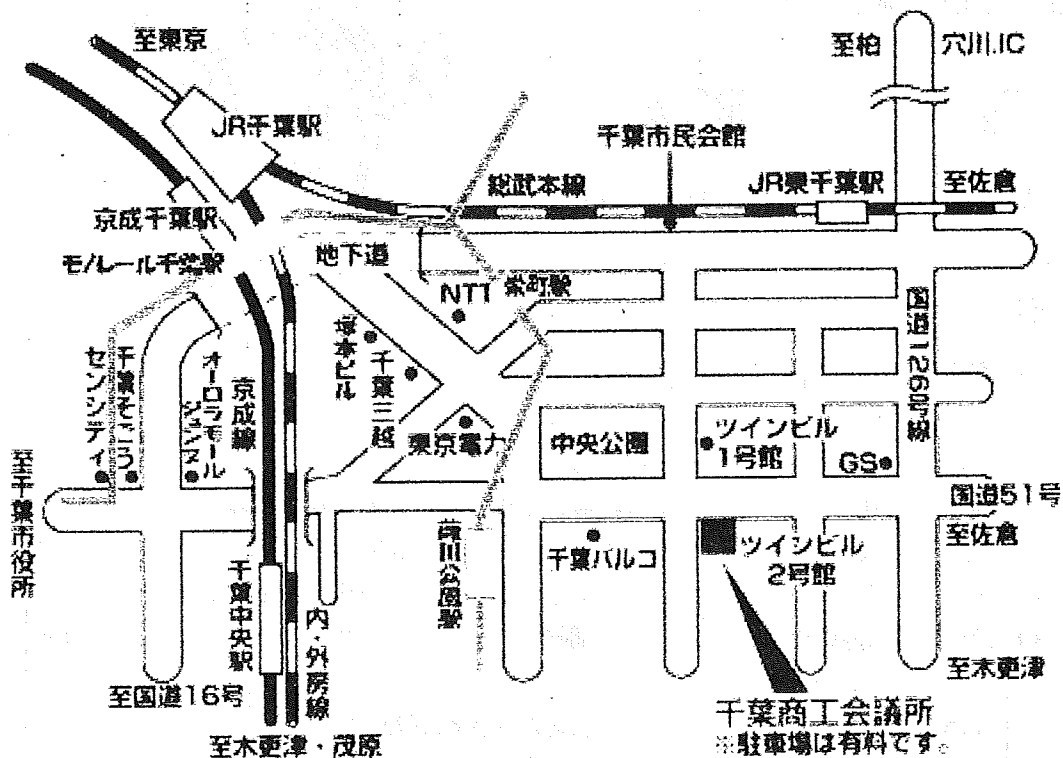
申し込み【締め切り: 1月25日(火)】

参加ご希望の方は、第5回研修、第6回研修の両方あるいは一つを選び、氏名、住所、電話番号、メールアドレスを明記し、下記申し込み先へFAX(裏面の申し込み用紙に記入)、メール(件名に「学校支援事業研修申し込み」と明記して下さい)、電話のいずれかでご連絡ください。定員を超えてしまい、お断りする場合に限り、お申し込みいただいてから翌日までにこちらからご連絡いたします。

●ちばMDエコネット事務局 (コミュニティカフェ〈ひなたぼっこ〉内)

電話・FAX: 047-426-8825 Eメール: sun@mdeconet.jp

<会場アクセス>



JR 千葉駅より 徒歩約10分 / 京成千葉中央駅より 徒歩約8分

千葉都市モノレール菟川公園駅より 徒歩約3分

2011年1月30日(日) 第5回・第6回研修申し込み用紙	
研修名	第5回研修 / 第6回研修 ※希望するものに○をして下さい
ふりがな 氏名	
所属	
連絡先	住所(〒)
	電話:
	FAX:
	メールアドレス:

※本申し込み用紙にご記入いただいた内容(収集した情報)は、本研修の開催目的以外その他研修会以外で使用することはありません。

ユニバーサル就労を始めて その4

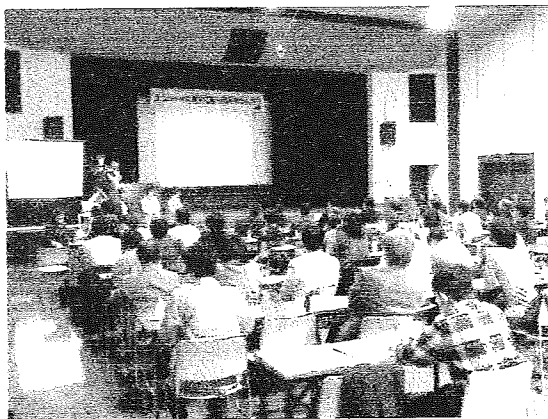
山本佳美

今回は、11月20日に行われた「高根台つどいの家」ユニバーサル就労ネットワークフォーラムのことを皆さまにご報告したいと思います！

高根台つどいの家で始まったユニバーサル就労の取り組みですが、まだまだ「ユニバーサル就労って何ですか？」と聞かれることも多いです。そこで、ネットワーク会議の中で「ユニバーサル就労について、広く一般の方に知っていただく機会を作ろう！」ということになり、フォーラムを開催する運びとなりました。実際に高根台つどいの家で働いている人の様子を通して、少しでもユニバーサル就労について理解を深めてもらいたい、という思いでした。

生活科学運営と生活クラブからは、知的障害のある人が介護の現場で働く様子、同じ職場で働くスタッフへの研修のことや仕事の組み方の工夫などが報告されました。セカンドスペースからは、引きこもりだった人が福祉カルチャー教室の講師をつとめることで人と話すことに自信が持てるようになり、次の仕事へのステップになっているというお話がありました。ちばMDエコネットでは、清掃業務の様子を映像にまとめて報告することにしました。映画『ひなたぼっこ』を撮影して下さった監督の桐野さんとカメラマンの中村さんをお願いして、清掃業務が始まったばかりの7月と、半年くらい過ぎた11月頃の様子を撮影しました。事務局長の私が編集作業に立ち合いました。桐野さんから「障害のあるスタッフのゆっくりした仕事の流れ」を伝えるためには、動作を丁寧に映像で追う時間が必要だというお話があり…映像を見て納得。ゆっくり、でも確実に仕事を覚え、半年の間に随分と成長した様子がわかりました。そして、何よりもリーダーとして働いてくださっている青山さんの接し方に学ぶところがたくさんありました。桐野さんが青山さんにインタビューをする場面。「始めたときは、正直、大丈夫か不安だったんです。でも、一つの作業が出来たら褒める、ということを大切にしようと思ったら、スタッフがやる気をもって仕事が進むようになったんです。」という青山さんの言葉が印象的でした。それは、障害のある人と仕事をする上で、一番重要なことではないでしょうか。

フォーラム終了後、他の団体の方から「このフォーラムに私たちの職員にも来てもらえたら、障害のある人との仕事のやり方について、もっと理解が深まったなあ、と思いました。」という感想がありました。来賓でいらしていた船橋市の松戸徹副市長は、報告を最後まで聞いて下さり、「とても勉強になりました。」とのこと。今後はこのネットワークを広げて、企業の皆さんに知っていただく働きかけが必要です。その中で、障害のある人だけでなく、働くことが困難な状況にある人全体のことを考え、新たな社会参加と就労の形を創り出していくことが求められていると思います。



『船橋よみうり』に掲載されました (2010年12月4日号)

知的障害者への雇用機会推進にユニバーサル就労



慣れた手つきで階段をモップ掛けする山田晶生さん(31)の手すりを拭きながらその横を通っていくのは山本江美子さん(30)だ。軽度の知的障害を抱える2人は、補助スタッフの助けをかりながら、6月から船橋の高齢者向け施設「高根台つどいの家」で清掃スタッフとして働いている。

モップがけは、横にモップをかける動作と、前に進む動きが組み合わさっており、障害者にとつては意外に困難な作業だ。最初は床をなぞるだけだった2人だが、今ではモップがけのほか、好奇心旺盛な山田さんは掃除機も担当し、山本さんは郵便受けの雑巾がけなど細かい作業もこなす。こうした知的障害者や引きこもりの人など、働き

民間の新たな試みに注目

9日まで障害者週間

たい気持ちがあるのに働けにくい状態にある人たちに就労の機会を与える「ユニバーサル就労」が広がり始めている。

同就労は、それぞれの事情に応じて必要な支援を受けながら、段階的に可能な作業を広げていき、多様な働き方を目指すもの。障害者や健常者の区別なく、精神的、身体的、社会的理由で働きにくい状態にある全ての人を対象としたもので、障害者雇用促進法による法定雇用とは一線を画している。市川市の高齢者向

「高根台つどいの家」で



段階的スキルアップで本格雇用へ

け施設「ライフ&シニアハウス市川」から始まったもので、全国でも2例目となる新しい取り組みだ。

受け入れ先は、業務を細分化することで就労の機会をつくり、対価は応分が支払われる。健常者が1時間で行う作業に対して、何時間かかっても何人かけてもよいが、対価は1時間分という仕組みだ。

高根台つどいの家の森村泰之ハウス長は「トイシの座面が清掃されていなかったり、最初は業務がこなせるか不安だったが、だが今では、問題なく任せられる」と話す。同施設では09年のオープンから介護や調理、事務作業などでも受け入れており、すでに知的障害者や引きこもりだった数人が個別就労につながった実績がでてくる。

受け入れにはお互い何ができる、できないかという共通認識が必要だ。その一助となっ

いるのが、船橋の障害者支援NPO「ちばMDEコネット」が作成した「サポートブック」だ。障害者に個人差があることをふま

え、個人別に作業の指示の伝え方や、声かけで気付けること、本人独特の

事業者にとっては受け入れる準備が必要だが、業務コストがかさむことはなく、就労者にとつては働く機会とスキルを学ぶことができる。今月3日9日は障害者週間。新たな取り組みが今、注目されている。

寝具の都築

羽毛・シルクふとん～綿ふとん・かいまき

※当店名を隠る業者にお気をつけください

TEL 047-472-1259

3日9日は障害者週間。新たな取り組みが今、注目されている。

一日社会奉仕体験を通して

教諭 青木 朋大

昨年の方校の初任者から、ちば MD エコネットさんに社会奉仕体験のお世話になった話を聞いてすぐに、ここで受け入れていただけるのであれば是非お願いしたいと思いました。というのは、学生時代カフェでアルバイトをしていた私はいずれ退職したら、カフェをつくりたいとなんとかではあるが考えているので、どんなカフェなのか是非みてみたい、そんな気持ちを持ちながら、申し込みの電話をさせて頂きました。

実際に体験を終えて、印象に残ったことがたくさんあったなかで、特に二点残りました。一点目は、体験する前にみせていただいたドキュメンタリー映画「ひなたぼっこ」です。もちろん映画のなかの展開がよかったとか、いろいろあるとおもうのですが、私は本当にこの映画を観て、心から笑ってしまいました。というより微笑まずにはいられない、ついにつっこりしてしまう、そして映画を見た後にとてもうれしい気持ちになる。この映画を見た人は皆、私と同じような感想をもったのではないのでしょうか。

二点目はカフェ「ひなたぼっこ」です。まず朝、迷子になりながら「ひなたぼっこ」に辿り着いたとき、外観の素晴らしさに驚きました、これは自分の想像をはるかに超えて本格的だなという印象を受けました。さらに驚いたことは外観だけでなく、内装はもちろん、使われているコーヒー、茶、新鮮なブラックベリー、その他、細部におけるまで、決してそこらのカフェには劣らない質の高さだと思いました。そんな本格的なところだから、もちろん、スタッフの教育にも妥協はありません。毎日違う店長であっても、同じサービスを提供できるように、もちろんスタッフが人によって指導されることが違うことで戸惑わないようにでもあると思いますが、とてもわかりやすく誰が観ても読んでも理解できるようにされているのは、「ひなたぼっこ」のメンバーのチームワークのおかげだと思います。そんな素敵なカフェで、一日体験させて頂きました。初めはトイレ掃除、開店の準備をするお手伝いから、実際カフェをオープンしてからの運営のお仕事を体験しました。たまには一部のスタッフがさぼったり、やらなかったりすることもありましたが、そんなことはどのような人間でもしてしまうことで、それが普通なのだと思いました。基本的に障害のある人もない人も同じように指導をして理解しているように思ったので何も違和感がなく体験をすることができました。

この体験を通して学んだことはいっぱいありますが、何よりも私自身ももっと普段の生活のなかで、嬉しいこと楽しいことがあるのに、それを感じることが出来ない、わすれてしまっているのではないかと感じたことです。それを気づかせてくれたちば MD エコネットの皆様本当に感謝しています。ありがとうございました。



告知板

■ちばMDエコネットからのお知らせ

- ◆臨時総会: 1月16日(日) 14:00~16:00 コミュニティカフェ〈ひなたぼっこ〉
- ◆馬込児童公園清掃: 2011年 1月8日(土)、22日(土)/2月12日(土)、26日(土)
時間 10:00~11:00 問い合わせ:ちばMDエコネット 047-426-8825

■おしゃべり会のお知らせ~1月・2月

1月21日(金)/2月18日(金) 10:30~12:00
問い合わせ:〈ひなたぼっこ〉 047-426-8825 【担当 山田】

■ノーマライゼーション学校支援事業第5、6回研修 ※詳しくは5、6ページ参照

1月30日(日) 第5回 13:00~15:00/第6回 15:15~17:15 千葉商工会議所

☆カフェ〈ひなたぼっこ〉教室のお知らせ

英会話教室:毎週金曜日 10:00~11:00 参加費 500円(1回)※時間を変更しました。
押し花教室:1月はお休み、2月15日(火) 14:00~16:00 参加費 300円+材料費
若石健康法(じゃくせきけんこうほう):毎月第2・4火曜日 予約制、参加費 500円(1回)
※お一人ずつ、20分~30分足裏マッサージを行います。先生のご都合により、2月末までで一旦終了となります。

ニットカフェ:講師のしのぎきゆみこさんのご都合により、しばらくお休みになります。

<問い合わせ&申し込み>カフェひなたぼっこ)047-426-8825

★カフェ〈ひなたぼっこ〉年末年始の休業のお知らせ★

12月26日(日)から2011年1月5日(水)まで年末年始のお休みといたします。

2011年は1月6日(木)から営業いたします。

本年度中の皆さまの応援ありがとうございました。来年もスタッフ一同笑顔で皆さまのご来店をお待ちしております。よろしく願いいたします。

【編集後記】◆四月、真希は、勤務していた保育園の民営化に伴って、隣の保育園に移動◆春、主人の単身赴任が終わり、にぎやかな生活に戻った◆秋、三人の子どもたちは、それぞれ一人暮らしを開始◆もちろん、真希も、二年越しの夢だった一人暮らしに、たくさんの人の力を借りて、挑戦◆限られた期間だったことや、我が家と行ったり来たりが容易にできたことで、はじめての体験は、楽しく、あっという間に終わった◆いよいよ我が家にも、巣立ちの時がやって来て、嬉しいような、寂しいような年末◆来年も、いい年であれ!(H)

★今年も残りわずかになりました。この時期になると大掃除に関する雑誌や番組が多くなりますね。「そうそう、へえ~簡単だね」と横目で見ながら、毎日が何の進展もなく過ぎ去っていく我が家★先日ハウスクリーニングの会社からの電話がありました。う~ん頼みたいのは山々だけれど...「ちなみにお値段は?」と聞き、即断念いたしました。その分で私の楽しみのお〇〇がどのくらい飲める?さあ始めるとしますか、今年も自分流の大掃除で何とか今年の汚れは今年中に★皆さん元気に良い年を!(Y)

二〇一〇年十二月十九日毎月一八回、一、三、五、六、七、九の日発行通巻六〇二
発行人・埼玉県障害者団体定期刊行物協会 一九八三年七月十九日第三種郵便物認可
埼玉県川口市元郷十の十の十三 定価 百五十円